

北から南から

地域とつながる木工クラブ

福岡県みやこ町老連 ● 52クラブ ● 会員数 3,087人

大切なことは安全に活動すること

みやこ町老連には、歩こう会、囲碁クラブなど六つの部活動があります。木工クラブはその一つで、社会福祉協議会が運営する憩の里の中にある木工館を利用して週3日（1日3時間）活動しています。現在、会員は17名（男性15名、女性2名）、木工初心者もいます。活動は、会場のカギの管理を役員が行い、事故や熱中症などを防止するために、作業は必ず2人以上で行うことにしています。クラブ内の連絡は、LINEグループを作っています。

地域のキャラクターを刻印したキーホルダー

木工クラブでは、自分が作りたい作品を自由に作ることができますが、クラブとして制作している木工品があります。11月に開催されるみやこ町産業祭で販売するまな板とカッティングボードです。この日のために準備するまな板は50枚、値段は大きさによって異なり2,000円～3,000円で販売しています。カッティングボードは、キャンプブームに注目してまな板の制作であまった木



スマホに登録したキャラクターをキーホルダーに刻印しているところ。



旧町のキャラクター。さいくん、とよびー、かっちゃん。

を使って作っています。値段は300円～500円、持ち運びに便利な大きさで好評です。

木を無駄にしない活動方針から、最後に残った小さな木切れを使ってキーホルダーを作ったところ、社会福祉協議会が行っている「みやこクラブ出産お祝い事業」のお祝いの品に取り上げられました。キーホルダーの裏面には、赤ちゃんの名前と誕生日を刻印しています。親子と地域との初めてのつながりをつくる目的で、主任児童委員が訪問して届けています。この他、キーホルダーを社会福祉協議会が開催する「ふくし祭」で1個100円で販売したところ70個売れました。収益金は赤い羽根（共同募金会）に寄付しました。活動を通じて自分が作った作品を褒められたり、感謝されたりすることが会員の喜びにつながっています。

連合会では、こうした部活動による加入促進に取り組む一方、解散クラブの会員、地域に老人クラブがない高齢者なども参加できるように、連合会直結のクラブを立ち上げ、多くの人に参加できる取り組みもしています。

（みやこ町老連事務局長 井上 哲也）